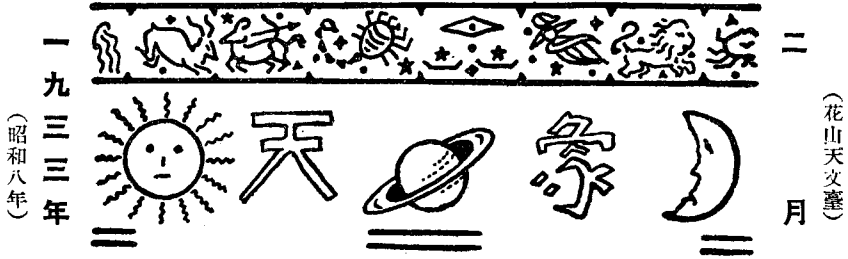


Title	天象 (幕末天文學史特輯)
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1933), 13(142): 78-79
Issue Date	1933-01-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/162312
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher



I—太陽と月 (天空の明暗)

日付	太陽		月			月の相
	日出 (星座) 時分	日没 時分	月齢	月出 (星座) 時分	月没 時分	
1	6 57 (やぎ)	5 25	5.7	10 34 (うし)	6	●上弦 2日22時16分
6	6 53	5 30	10.7	13 30 (うし)	4 6	
11	6 49	5 35	15.7	18 36 (しし)	7 20	○満月10日22時00分
16	6 44 (みづかめ)	5 40	20.7	(おとめ)	9 45	●下弦17日23時08分
21	6 38	5 44	25.7	4 42 (いて)	14 29	
26	6 32	5 49	1.1	7 24 (うし)	20 0	●新月24日21時44分
翌3	6 25	5 54	6.1	9 48 (うし)	0 3	

II—著しき天象

二月 1 日	18時	水星(S1°32')と土星の會合
1 日	3時 08分	天王星(S4°33')と月の會合
8 日	9時 —	水星の外合
12 日	7時 06分	海王星(N 1° 07')と月の會合
13 日	0時 02分	火星(N 5° 41')と月の會合
13 日	5時 50分	木星(N 3° 02')と月の會合
15 日	6時 —	金星(S 12')と土星の會合
16 日	12時 —	火星が遠日點に
17 日	0時 12分	土星(N 1° 59')と月の會合
23 日	17時 40分	金星(N 38')と月の會合
24 日	— —	部分日食
26 日	3時 22分	水星(N 1° 35')と月の會合
27 日	1時 —	水星が昇交點に
28 日	5時 —	海王星の對衝
28 日	14時 5分	天王星(S 4°39')と月の會合

二月の夜の天空

(恒星時 Sidereal Time 4時40分)

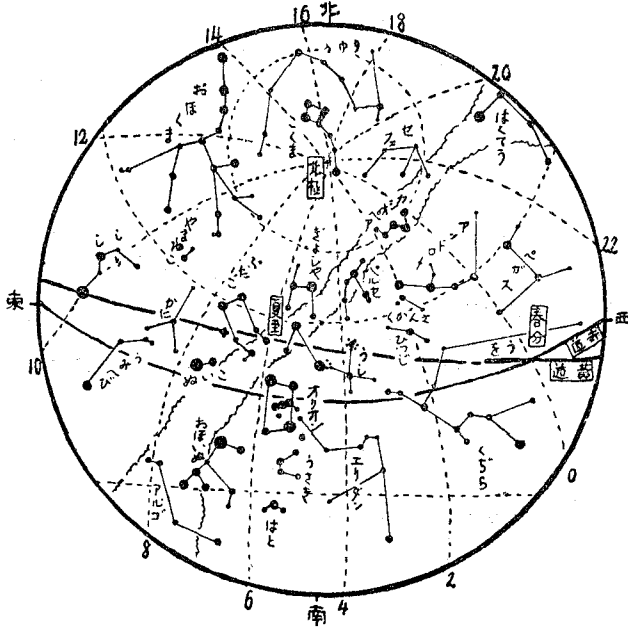
日本の中央部(京阪神地方)で

2月1日ならば午後8時,

15日ならば午後7時

東京は約15分早く、福岡は約20分遅く現はる

但し時刻は日本中央標準時



冬二月の空

冷い木枯しに星もまたよいてゐる。すき通る様な二月の空には、東西に流れる天の川を背景にして降る様な星月夜を現出する。

久しく見なれたカシオペヤの W も西の空に低くおりてゆかし、巨大な鯨も地平線迄送り落ちようとしてゐる。

北極星をはきんで、カシオペヤの W と入れ代りに、壯大な大熊が前足をのばして昇つて来た。

天頂から南にかけて出揃つた星座のうち、一等星をもたないものが幾つあらか。

眞上の馭者には黄色くて大きな「カペラ」がみえるし、牛座には赤いアルデバランがある。オリオンについて登つて来た大犬には全天第一の輝星シリウスがある。これらの中にあつて双子座の東は唯一の物靜かな場所で、中央に光つてゐる一等星は小犬の「プロキオン」である。

東に登つたばかりの獅子座にはレグルスの他に見なれない星が二つ。

レグルスが高くなると地上にも春がめぐつてくる。